

副校長・教頭だより 11月号

『鶴見防災キャンプ2018報告～急な災害に備える、共助の取組～』

10月26日～27日 鶴見防災キャンプが行われました。最近、地震の他大雨による洪水や土砂災害など様々な地域で予期せぬことが起こっています。急な災害に遭遇した時学校は何ができるのか、避難所での生活を体験するために鶴見養護学校は昨年からの宿泊型の防災キャンプを行っています。

防災に対する考え方として、「自助」「共助」「公助」の三助があります。「自助」とは、自分自身で防災に取り組むことです。我が家も水や食料など備えています。毎年見直していないと賞味期限が切れていたりします。食料だけでなく、日用品の確認やいざというときの家族間での約束の確認なども必要だと思っています。

「共助」とは地域で災害発生時に力をあわせること。「公助」は市役所、消防、警察、自衛隊などによる公的な支援のことを指します。昨年のキャンプは災害時に体育館で泊まる必要が生じたことを想定して「共助」の中でも「泊まり体験」が中心でしたが、今年は参加者皆さんが共に力を合わせ1から避難所をつくる取組を行いました。



16:30の開始から、参加者をグループに分け、それぞれの役割を確認しました。救護・衛生班は、救護室の開設準備、簡易トイレ設置、ごみ回収ボックスの設置などを担当しました。物資食料班は、食料運搬、アルファ米（ひじきご飯）の準備、非常食配給、総務班は受付準備、パーテーションの段ボール運搬など、どの班も校内を何往復しながら、必要物品を運び避難所を設営していきました。

避難所ができあがるまで、児童・生徒はボランティア教員と一緒に「影絵で楽しい気持ちボックス」製作を行いました。できあがった作品にランタンの光を当てると、きれいに壁に映し出され、癒しの空間ができました。

防災キャンプから1時間半程で、避難所は完成し、夕飯です。もうすっかり陽も暮れ、体育館のランタンと自家発電機で動かす投光器の薄暗い光の中での食事です。水で戻したひじきご飯でしたが、味もよく1袋で満腹になる量でした。

食事後は、板段ボールを使ってパーテーションを組み立て、自分の居住スペースをつくりました。児童生徒も段ボールを抑えたり、ガムテープを切ったり自分にできることに真剣に取り組んでいました。今年は居住場所を規則的に並べることで、より多くの人々のエリアを確保できるようにしました。自分のエリアができるとすぐに横になりおやすみモードの生徒もいました。



防災キャンプ参加者からは、「参加者に役割があってやりがいがあった。」「子どもたちも家庭ではできない体験ができてよかった。」などの声が多く聞かれました。災害の被害をできる限り少なくするために、自ら取り組む自助だけでなく、地域で取り組む共助をさらに充実させ、いざというときにすぐ動けるように、今後も様々な訓練を計画していきたいと思います。

沢山の方々のご協力により防災キャンプが運営できたことに感謝いたします。

副校長 武石 律子